

第18回国立大学法人奈良国立大学機構経営協議会記録

日 時 令和6年3月18日(月) 13時30分～14時50分
場 所 奈良国立大学機構第一会議室
出席者 榊理事長、宮下大学総括理事、今岡大学総括理事、榎本理事、西村理事、
國枝委員、松本伸之委員、松本洋一郎委員、村岡委員、森川委員
欠席者 吉田委員
列席者 三野監事、三谷監事、大久保監事、三木事務局次長、高田教授
(機構事務部)
林総務課長、望月企画課長、川村人事課長、幸田財務課長、奥施設課長
(奈良教育大学事務部)
矢倉総務課長、寺本企画・財務課長
議 長 榊理事長

議事に先立ち、第15回～第17回経営協議会記録を確認

審議事項

1. 令和6年度予算配分(案)について

榎本理事から、資料1-1に基づき令和6年度予算配分(案)について、資料1-2に基づき令和6年度「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の分析資料について説明があった。審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

2. 奈良国立大学機構次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定について

榎本理事から、資料2に基づき、令和6年4月1日からの一般事業主行動計画の策定について説明があった。審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

3. 諸規程の改正について

三木事務局次長から、資料3-1に基づき、幼保連携型こども園設置に伴う名称変更、授業料の設定等による規程改正について説明があった。続いて、榎本理事から、資料3-2～3-5に基づき、諸規程の改正について説明があった。審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

4. 職員宿舍の廃止等について

榎本理事から、資料4に基づき、職員宿舍の廃止等について説明があった。審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

5. 次代の経営人材の育成及びフォローアップの公表について

榎本理事から、資料5に基づき、ガバナンス・コードにおいて、令和5年度中に行なうこととしていた次代の経営人材の育成及びフォローアップの公表について説明があった。審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

6. その他

特になし

報告事項

1. 科研費などによる研究の推進について

榎本理事から、資料6に基づき、科研費などによる研究の推進について報告があった。

松本洋一郎委員より、日頃から積極的に共同研究を行うこと、学会に参加し議論する機会をもつこと、国内外とのネットワークを築いていくことが重要であり、機構としては研究者間のネットワーク形成を後押しすることが必要であるとの意見があった。

國枝委員より、科研費採択の成果が上がっていない旨の指摘があった。科研費採択にはアドバイザーの活用が有効であり、積極的に活用してほしい旨の意見があった。

高田教授より、若手～中堅の研究者が短期間であっても海外で共同研究等の経験を積むことができるように考えたいとの発言があった。

松本伸之委員より、奈良カレッジズを起点とした研究や、地域との共同、奈良の特色を生かしたアジアとの交流といった側面から、若手が積極的に参加し、奈良カレッジズや奈良を盛り上げるようなテーマ作りが不可欠であるとの意見があった。

2. 国立大学法人等における剰余金の翌事業年度への繰り越しに係る承認について

榎本理事から、資料7に基づき、令和4事業年度剰余金の翌事業年度への繰り越しが承認されたことについて報告があった。

3. 奈良教育大学附属小学校の教育課程にかかる事案について

宮下大学総括理事から、資料8に基づき、奈良教育大学附属小学校の教育課程にかかる事案について報告があった。

4. その他

特になし

その他事項

1. 経営協議会の学外委員からの意見及び本機構の対応状況（令和5年度）について

榎本理事から、資料9に基づき、経営協議会学外委員からの意見及び本機構の対応状況（令和5年度）について報告があり、このとおり機構ホームページへ掲載することとした。

委員からは、以下の意見等があった。

松本洋一郎委員より、昨今は、海外で活躍する日本人研究者が減少しているが、世界のマーケットとのつながりを意識し、海外で活躍する研究者がどのように日本を見ているのか、今後の日本の学術に資するためには、海外とどのように関係を築くことが求められるか、について機構から発信していくことで、日本においても注目を受けるようになるのではないかと意見があった。

松本伸之委員より、機構として一体となった取組みや対外的なアピールがまだ弱いと、両学の取組みは個別に終始しているように思う。両学の個性を生かした取り組みを進めることは重要だが、共同して取り組む成果を出さなければ、機構としては影が薄いままであるとの指摘があった。

國枝委員から、科学教育センターについて、機構としてのシンボリックな取組みとして両学が連携し、奈良の歴史的なリソースを活用できるよう構想していただきたいこと、海外との連携については、教員が活発に海外で研究できるような取組みを期待したいとの意見があった。

村岡委員から、統合にあたっての初志を思い起こし、継続した取り組みを期待したいこと、あらゆる分野で奈良の歴史的資産を有効活用できるよう、国際的なネットワークを広げ発信していくことが喫緊の課題であること、若手教員は短期間であっても海外の研究

者との交流の機会をもつことが必要であること等の意見があった。

森川委員から、新型コロナウイルスの流行等の社会的な変化や、教育において要請される内容の変化等を捉え、地域の課題を解決するプログラムを大学として進めていただきたいとの意見があった。

次回は、日程調整の上、6月下旬に開催することとして散会。

以 上